

平成29年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月10日実施)	総合評価(3月27日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	柔軟な学びのシステムを活かした教育課程の編成を推進する。 生徒が主体的に学び、学力の定着が図れるような授業を実現するための研究を推進する。	① Semester制の導入に向けた諸課題の整備と調整を行う。 ② 生徒の主体的な学習を促す授業の研究を行う。	① 選択科目を見直し教育課程の充実を図る。 ② 各教科を中心に、「清南型アクティブラーニング」の授業形態の研究を行い、その結果を共有する。	① 生徒のニーズに合った選択科目を設置できているか。 ② 各科目の特性を活かした「清南型アクティブラーニング」の授業実践ができたか。	① 見直しをした学校設定科目について、設置や廃止の申請をし、次年度以降へ向けて準備を進めた。 ② 職員会議や一斉教科会を通じて定期的に全職員で討議を重ねた結果、どのような授業にしていけるかを再確認できた。	① 新旧の教育課程が混在しているため、年次により開講や閉講になる科目があるため、履修指導に注意が必要である。 ② 生徒が直接確認できる成果に結びつく授業内容も必要なので、科目担当者での協議をさらに深めていく。	① 生徒一人ひとりに対応した履修指導は大変だが、きめ細かな対応をお願いしたい。 ② 「分かった」と感じられる体験を更に生徒に味わわせてほしい。	① 次年度以降の準備を進められた。具体的な閉講・開講や増加単位の手続きにおいて、周知の必要がある。 ② 全職員で定期的などのような授業にしていけるかを再確認できた。生徒が「分かった」と感じられる授業づくりについて、協議を深めていく必要がある。	① 運営会議等の三課程の学習支援のGLが集まる際に情報を共有し進めていく。 ② 各教科・科目でより具体的な取組方針を定めて、日々の授業において実践していく。
2 生徒指導・支援	多様な課題を抱える生徒に対応するため指導、支援体制の充実を図る。 学校行事を通して生徒の自己肯定感の向上を図る。	① 外部の機関や人材と連携し、積極的に活用する。 ・ マナーアップを推進し、コミュニケーション能力を育成する。 ② 生徒が主体的に活動する環境づくりを進め、自己肯定感を向上させる。	① 各年次の教育相談係を通じて、生徒に関する情報を迅速に収集し、必要に応じてSC、SSWにつなげる。 ・ 全校集会等の運営を通じて、生徒への意識づけを行う。 ・ 状況に応じた柔軟な巡回指導体制を敷き、問題行動の未然防止に努める、その際、挨拶の励行を促す。 ② 学校行事や委員会活動などを通じて、生徒が主体的に活動できる環境づくりをする。	① SC、SSWの利用及び、課題の解決状況。 ・ 生徒の反応状況。 ・ 生徒指導案件の内容及び、近隣からの情報提供の状況。 ② 学校行事や委員会活動の運営が生徒主体のものとなっていたか。	① 情報提供を受け支援の必要のある生徒等をSC・SSWにつなげた。フィードバックを受け、指導に反映できた。 ・ 生徒への意識づけを引き続き行っていく。 ・ 近隣からの情報提供等で確認した状況について随時生徒への呼びかけ等を行った。喫煙等の特別指導件数は減少した。 ② 事後アンケートでは、8割以上の生徒が目的達成できたと回答している。	① 教育相談体制の更なる充実を図る。担任・年次とグループとの連携を密に行っていく。 ・ 折々のテーマを設定し掲示したり、ワークシートに取り組みせたりして気づきを促す。 ・ グループや年次が組織として生徒への呼びかけ等を行っていく。 ② 中心となって積極的に活動を率いていく生徒を増やしていく工夫が必要である。	① 課題を抱える生徒への支援を引き続き進めてほしい。 ・ 地域でも生徒が積極的に挨拶できるようにするとよい。 ② 生徒が、コミュニティ・スクールの取組みによって、地域の担い手としての自覚が高まることを期待したい。	① SC・SSWにつなげた生徒の情報について、フィードバックを受け、指導に活かした。今後も外部機関との連携を続け、コミュニティ・スクールの10名の外部委員の協力も仰ぎたい。 ・ 生徒への意識づけだけでなく、高校生が地域に出ていき、地域への愛着をもてるようにしたい。 ② 学校行事では、8割以上の生徒が目的を達成できたと回答している。さらに、生徒が地域を大切にしたい気持ちをもつ視点を育てたい。	① 文部科学省指定の多様な学習支援の取組みで得られた成果を活かし、全日制としても外部機関と積極的に関わっていきたい。 ・ 日々の教育活動の中で、生徒への意識づけを今後とも機会を捉え、行っていく。 ② 生徒主体の活動となるよう、今後とも支援を続けていく。

	視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月10日実施)	総合評価(3月27日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	生徒一人ひとりが将来性、計画性を踏まえて自己実現ができる進路指導の充実を図る。	①キャリアサポート体制を拡充する。 ・「生きる力」を育む。	①年次段階に応じた支援計画を企画実行しながら、個別の進路計画の活用を図る。 ・総合的な学習の時間や外部の教育力を活用する。さらに履修指導なども含めた多面的な指導を行う。	①生徒観察。進路カルテの記述状況および活用状況。 ・進路達成状況とその内訳。	①外部機関を活用しガイダンスや卒業生講演を増やした。進路カルテを学習の振り返りに活用した。 ・2月時点で進路活動中の生徒が複数残っている。また大学進学者が減少、専門学校が増加傾向にある。	①新入試制度に対応した進路カルテの見直し、学習支援と連携した履修指導が必要である。 ・学費に係る保護者への連携を進める。また、進路先により外部試験等を活用する必要がある。	①奨学金や学費優遇制度について、生徒への周知を進めてほしい。保護者が気軽に問い合わせることができるように。 ・学費の問題で進学をあきらめている生徒に公共開発校を推奨してほしい。	①ガイダンスの充実により活動する生徒が増えていくが、一方決断に迷い進路活動開始が遅れた生徒がいる。 ・進路カルテを定期的に生徒に記入させ、振り返りに活用できた。1年次生について、新入試制度への対応が必要である。 ・奨学金について、生徒や保護者が理解を深める必要がある。	①グループだけではなく担任に計画の周知を図り、生徒への具体的な支援を図る。 ・進路カルテを改訂して記載事項の拡充に対応し、生徒への周知も図る。 ・奨学金ガイダンスや保護者説明会で周知を図る。
4	地域等との協働	地域に理解され、信頼される活動を推進する。	①地域の学校等と連携するなど、地域貢献活動に積極的に取り組む。 ・日々の教育活動について、より丁寧な情報発信を行う。 ・地域の防災活動について協働を図る。	①部活動・生徒会活動等を通じ、地域の小中学校との連携を図る。 ・教育活動のねらいや意図に加え、生徒の様子を丁寧に説明し、本校への理解度の向上を目指す。 ・地域の美化活動、DIG研修等を通じ、地域理解を広げ、自治会の防災活動との連携を図る。	①活動の件数を増やし、内容を充実させることができたか。 ・ホームページが情報の割合がアップしたか。ホームページの見やすさが向上したか。 ・防災活動における地域との連携はできたか。	①生徒会役員の生徒が厚木第二小学校のイベントで手話や生け花のブース手伝った。 ・日々の教育活動の様子を、ホームページにできるだけ多く、わかりやすくアップした。 ・保育園児の避難訓練での生徒による支援など、地域との連携に努めた。	①本校の初任者が厚木第二小学校において、研修の一環で出前授業を行い、児童たちに好評であった。地域との連携に取り組んでいく。 ・今後も、ホームページの充実を図り、本校の魅力と特色の発信に努める。 ・自治体との連携を継続して模索する。	①生徒が地域に出ていき、厚木南地区への愛着をもってもらいたい。 ・地域住民にとっては、ホームページよりも回覧板を利用して学校からの連絡やPRをしてもらった方がよい。	①厚木第二小学校等のイベントに生徒が参加できた。しかし、単位制のため、生徒が集まる機会が少ないので、活動を進めにくいことが課題である。 ・日々の教育活動の様子をホームページに分かりやすく発信できた。地域の情報発信方法として回覧板や掲示板へのポスター掲示なども視野に入れていく。	①生徒に声かけをしていくことで、少しずつ取り組む。 ・地域の学校や住民の方々に向けての情報発信方法を検討する。
5	学校管理 学校運営	安全・安心な学校づくりのために三課程が連携して教育活動を展開する。 フレキシブルスクールとして三課程の情報共有を推進する。	①学校運営マニュアル等を作成し、内容の周知を図る。 ・三課程で実施する防災訓練を定着させる。 ②ICT機器の利活用により、学校運営の円滑化をさらに推進する。	①学校安全・安心活動計画の取りまとめと内容の周知を図る。 ・三課程合同訓練の実施目標を明確にし、事後の検証を行う。 ②ICT機器の整備を行い、授業や行事等における積極的な利活用を呼びかける。	①学校運営マニュアルの周知を図ることができたか。 ・これまでの取組みの整理と今後の方針を確認できたか。 ②ICT機器の整備を進め、積極的な活用状況が見られたか。	①三課程での調整を重ね必要に応じて職員全体に周知した。 ・三課程合同防災訓練は共通目標に沿って実施できた。 ②ICT機器が整備され、普通教室での使用が容易になったが、積極的な活用には課題が残る。	①時間をかけて説明し、周知を図る。 ・課程別の訓練と合同訓練の連動を考える。 ②職員対象のICT機器の利用研修会を開催し、手軽に授業で利用できる環境づくりをしていく。	①生徒の安全・安心のためにきめ細かく取り組んでほしい。 ・情報共有を密に行い、防災・減災に取り組んでほしい。 ②三課程それぞれの特性を活かし、組織として取り組むには、情報共有をこれまで以上に大切にしてほしい。	①学校運営マニュアルの職員への周知を図ることができた。 ・三課程合同防災訓練をねらいに沿って実施できた。課程別の訓練と合同訓練を連動させて行う。 ②来年度もICT機器の整備が進み、積極的な利用を推進する。 ②ICT機器利用研修会の複数回の実施を検討する。	①今後とも、内容の検討を三課程で続けていく。 ・三課程で共通目標を共有し、具体的な取組方針に基づいて行う。 ②ICT機器利用研修会の複数回の実施を検討する。